

兵庫消防

発行所
公益財団法人兵庫県消防協会
神戸市中央区下山手通6丁目3番28号
編集発行人 安満 真哉

二〇二五年
全国統一防火標語
急ぐ日も
足止め火を止め
準備よし



「神戸市消防出初式 一斉放水」

令和八年の輝かしい新春を迎え、消防団員、消防職員並びにご家族の皆様にご挨拶を申し上げます。皆様方におかれましては、消防防炎の最前線に立ち、様々な災害から地域の安全・安心を守るため、日夜、消防・防災活動にご精励いただいておりますこと心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。また平素より当協会の運営並びに活動に対し、格別のご理解とご協力をいただ

ていることにつきまして厚く御礼申し上げます。さて、昨年を振り返りますと、年明け早々から林野火災の報が相次ぎ、消防団をはじめ各消防機関の緊密な連携が求められる幕開けとなりました。夏にはカムチャツカ半島付近で発生した地震に伴う津波が日本各地にまで及んだほか、トカラ列島での群発地震、一二月には青森県東方沖で最大震度六強の地震が発生するなど、自然災害は激甚化・頻

発化しています。今や、いっどこで災害が起きてもおかしくない状況の中、消防団は様々な災害に対処する地域防災力の中核的存在として欠くことができないものとなっております。我々はより一層強固な消防・防災体制の構築に努めていかなければなりません。当協会といたしましても、消防の持つ役割とその重要性を深く認識するとともに、地域の安全・安心のため、各種



公益財団法人 兵庫県消防協会
会長 安満 真哉

新年のあいさつ

新年あけましておめでとうございます。昨年は、阪神・淡路大震災から三〇年、終戦から八〇年という大きな節目を迎え、過去を振り返り、未来への責任を改めて心に刻む、意義深い一年となりました。令和八年は午（うま）年。

力強く駆け抜ける「行動力」と「挑戦」を象徴する年であり、未来に向けた兵庫づくりを力強く進めてまいります。第一は、若者・Z世代へのさらなる支援です。県立大学授業料無償化等の教育費負担の軽減、県立学校の教育環境の充実、海外留学支援、不登

校やケアアリーバー等の課題を抱える若者への支援など、一人一人が自らの夢や目標に向かって、力を発揮できる環境を整えます。第二は、活力あふれる兵庫の創出です。フィールド・パビリオンなどの万博のレガシーを活かした交流人口の拡大や、

未来を見据え、県民の皆様とともに新しい時代を切り拓いていく決意です。どうぞご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

兵庫県知事 齋藤元彦



スポーツ・芸術文化の振興、農林水産業や地場産業への支援など、地域の魅力を高め、活力ある兵庫を築いていきます。第三は、安全安心な暮らしを支える基盤の強化です。南海トラフ地震などの大規模災害に備え、防災力を高めるとともに、上下水道の老朽化対策、特殊詐欺被害対策、ツキノワグマ対策などの日常の安全を守る取組を強化していきます。

令和八年新春メッセージ 次代を拓く 兵庫の力

年頭の辞

消防庁長官

大沢 博



令和八年の新春を迎えるに当たり、全国の消防関係者の皆様に謹んで年頭の御挨拶を申し上げます。皆様方には、平素から消防防災活動や消防関係業務などに御尽力いただいております。心から敬意を表し、深く感謝申し上げます。

昨年は、岩手県大船渡市や愛媛県今治市などにおける林野火災、八月以降は広域で線状降水帯による大雨や台風の影響、さらに一月には、大分市において大規模火災が発生するなど、日本各地で災害が相次ぎました。

お亡くなりになられた方々の御冥福をお祈りするとともに、被災された方々に心からお見舞い申し上げます。

災害現場においては、被災地の消防本部や地元消防団はもとより、被災状況によっては県内外の消防応援隊や緊急消防援助隊も総力を挙げて国民の生命、身体及び財産を守るため最前線での活動等に当たっていただきました。改めて皆様の御活躍・御尽力に敬意を表しますとともに、心から御礼申し上げます。

また、令和六年は救急出動件数、搬送人員ともに過去最多となり、令和七年は記録的な猛暑のため、熱中症患者の搬送も過去最多となりました。そうした過酷な救急の現場においても、日々、献身的に御対応いただいておりますことに感謝申し上げます。

近年、災害が激甚化・頻発化しており、「南海トラフ地震」、「首都直下地震」などの発生が危惧される中、国民の生命、身体及び財産を守る消防の果たす役割は、より一層重要なものとなっております。

消防庁では、国民の皆様が引き続き安心して暮らせるように、緊急消防援助隊や常備消防、消防団の充実強化をはじめ、消防分野におけるDX・新技術の研究開発の推進などを柱とし、消防防災力の強化に取り組みます。

とりわけ、大規模災害対応の要である緊急消防援助隊については、創設から三〇年を迎え、今後発生が懸念される「南海トラフ地震」等の大規模災害に備えて、緊急消防援助隊出動の際に、情報収集・映像送信の任務を行う消防庁ヘリコプターを増機するとともに、令和四年度以来となる全国合同訓練の開催、緊急消

防援助隊受援アドバイザーの派遣、緊急消防援助隊への救助技術の高度化及び普及を計画的に進めてまいります。

また、団員減少が危惧的な状況にある消防団については、引き続き、装備や資機材の充実強化に取り組みとともに、女性や若者をはじめとする幅広い住民の消防団への入団を促進するため、モデル事業による支援、自治体等と連携した広報などを行い、消防団員の確保に全力を挙げてまいります。

さらに、消防分野におけるDX・新技術の研究開発の推進については、競争的研究費の拡充による、災害の検証結果を踏まえた緊急的な課題解決に資する研究開発の推進をはじめとし、消防の現場ニーズと企業等の技術シーズのマッチング促進、マイナ救急の全国展開・機能拡充や消防団におけるドローンの活用な

どを推進してまいります。

加えて、国民保護体制の整備に万全を期すため、消防庁では、沖繩県の先島五市町村のうち、竹富町、多良間村における特定臨時避難施設（シェルター）の整備を支援するほか、地方公共団体と連携した住民避難訓練の実施や避難施設の指定促進に取り組むとともに、Jアラートの新システムへの更改を進めてまいります。

皆様方におかれましては、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりとそれを支える我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展のため、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

結びに、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

『さまでまな』

環境変化のなか、地域の安全を



公益財団法人 日本消防協会

会長 秋本 敏文

新年おめでとうございます。本年が兵庫県にとってよい年であり、県内各地、無事平穏でありますようお願い申し上げます。

だいてきた兵庫県消防の皆様が心から敬意を表し、感謝申し上げます。

近年は、消防をとりまく環境にさまざまな変化が見られます。気象状況の変化を背景として、災害の様相が変化し、大規模な被害を伴うものが増加していますし、人口減少や地域コミュニティの弱体化など社会経済の変化があります。また、新しい技術、素材もい

兵庫県では、我が国消防の歴史を大きく揺るがした阪神・淡路大震災を経験されたほか、広大で多様な県土においてさまざまな経験をなさっております。そのなかで、力を合わせてご活動いた

ろい登場するようになっていきます。

消防は、これらの変化に対応しながら、地域の安全確保のため力を尽くさなければなりませんので、関係の方々にはご尽力いただいておりますが、なかなか容易ではありません。気象災害に関連する地域限定の災害の場合は影響を受ける地域、時刻などに関連する正確な情報の把握、分析、共有が必要で、その地域の自然的社会的状況に応じた的確な対応が、益々重要になっていきます。

世界各地で頻発している林野火災は、国内でも各地で発生していますので、昨年、新しいニッショーホールで「山火事など世界災害」の国際会

議を開催し、各国消防の対応も含めて情報交流を行い、今後の参考とすることといたしました。

対応体制の確保の面では、消防団員や女性防火クラブ、自主防災組織のメンバー確保が大きな課題であります。当協会では消防団員確保対策推進本部を設けるなどして消防団の重要性、団員活動のやり甲斐などのPRを関係方面にお願いしておりますが、さらに加えて、地域防災力の充実強化をすすめる法律の趣旨に沿って、地域コミュニティのご活動のなかでも、地域の安全確保が幅広い皆さんに関心対象となり、皆さんにご参加頂いて、地域の総合的な防災力の充実を進めていただく

ようにということも申しあげていきます。

日本消防協会は、微力ではございますが、新しい日本消防会館も活用しながら、今年も努力してまいります。

消防をとりまく環境の大きな変化に対応しながら、消防が地域の安全を守り、国民の皆さんの生命財産を守り抜くことができよう、今年も関係の皆様とともに、努力してまいります。

兵庫県消防の皆様が事故なくご無事に活躍頂くことができますように、そして県内各地が無事平穏でありますよう重ねてお祈り申しあげて新年のごあいさつとさせていただきます。

を推進してまいります。

加えて、国民保護体制の整備に万全を期すため、消防庁では、沖繩県の先島五市町村のうち、竹富町、多良間村における特定臨時避難施設（シェルター）の整備を支援するほか、地方公共団体と連携した住民避難訓練の実施や避難施設の指定促進に取り組むとともに、Jアラートの新システムへの更改を進めてまいります。

皆様方におかれましては、国民が安心して暮らせる安全な地域づくりとそれを支える我が国の消防防災・危機管理体制の更なる発展のため、より一層の御支援と御協力を賜りますようお願い申し上げます。

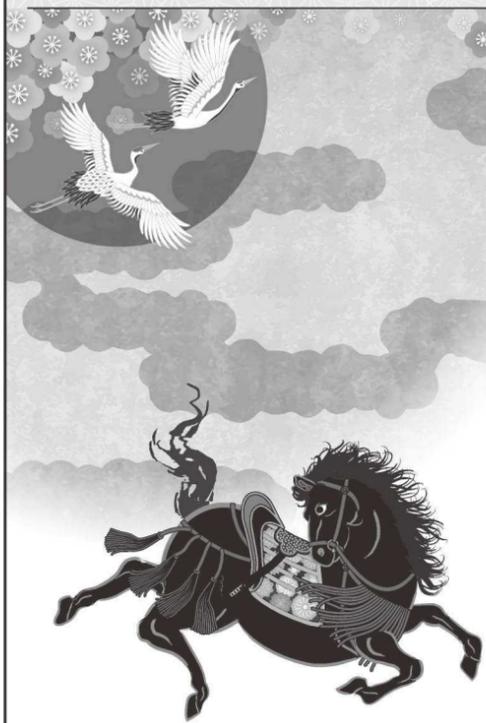
結びに、皆様の益々の御健勝と御発展を祈念いたしまして、年頭の挨拶とさせていただきます。

新年のご挨拶

謹んで新春のご挨拶を申し上げます。

公益財団法人 兵庫県消防協会
令和八年元旦

- | | |
|------|-------|
| 名誉会長 | 岸谷 義雄 |
| 会長 | 安満 真哉 |
| 副会長 | 穴田 泰久 |
| | 久保 善一 |
| | 樋口 満 |
| | 筒井 悟 |
| | 坂本 信嘉 |
| | 田中 繁幸 |
| | 椿野 仁司 |
| | 青木 則明 |
| | 井上 英樹 |



次 第

第一部 開会のことば

国歌演奏
 兵庫県消防協会会長あいさつ
 兵庫県知事式辞
 姫路市長あいさつ
 来賓祝辞・紹介
 表彰及び感謝
 兵庫県知事表彰・感謝
 兵庫県消防協会会長表彰・感謝
 受章者代表謝辞

第二部 講演

「さまざまな『変化』のなかの
 日本消防」
 公益財団法人 日本消防協会会長
 秋本 敏文氏
 閉会のことば

ひょうご消防のつどい2025開催



受章者代表謝辞

消防本部・消防団の幹部 及び自主防災組織が 姫路市市民会館に集う

令和七年一月二三日、姫路市市民会館において、ひょうご消防のつどい二〇二五が開催されました。

本つどいは、兵庫県下の消防本部・消防団の幹部、自主防災組織等が共に集い、永年の功績を讃える表彰とともに、幹部の研修として講師による講演を行い、士気の高揚と知識・技術の研鑽を深めることを通じて消防人の強固な団結と消防機関の連携体制を強化することを目的に実施しています。

第一部の兵庫県消防協会会長あいさつでは、安満真哉会長が、「地域に根差した防災力の成熟」を目指し、消防関係機関が一体となり重ねる災害への備えこそ、地域住民を守ることに繋がると述べました。

また服部洋平副知事は、式辞の中で、南海トラフ地震をはじめとする激甚化・頻発化する自然災害に対する日頃の備えの重要性を強調し、阪神・淡路大震災の教訓の一つである地域防災力の更なる充実・強化への取組を呼びかけました。その後県知事表彰及び県消防協会会長表彰が式典にて執り行われました。

第二部では阪神・淡路大震災から三〇年を迎えたことから、震災当時は自治省大臣官房長として兵庫県の復旧・復興を支援し、その後消防庁長官として消防体制の強化に尽力された、公益財団法人日本

消防協会の秋本敏文会長をお招きし、当時の経験もふまえた「さまざまな『変化』のなかの日本消防」と題した講演を行っていただきました。本式典における表彰者は以下のとおりです。

兵庫県知事表彰

表彰旗 一団体
 六 粟市消防団
 竿頭綬 三団体
 姫路市姫路西消防団
 明石市消防団
 芦屋市消防団

功労章

消防吏員の部 九三名
 消防団員の部 三八名
 永年勤続功労章
 消防吏員の部 一〇五名
 消防団員の部 三二三名
 随時知事表彰

表彰状(団体)

優良自主防災組織 一組
 団体の部 一三組
 個人の部 一名
 永年勤続功労者賞 四名
 家族の賞 (吏員) 一〇九名 (団員) 四二七名

兵庫県消防協会会長表彰

表彰旗 一団体
 豊岡市城崎消防団
 優良竿頭綬 三団体
 神戸市長田消防団
 丹波市消防団
 加東市消防団

功績章

功績章 一八八名
 精績章 六六二名
 勲続章 三八一名
 精勤章 二組
 夫婦団員の賞 八三名
 家族の賞 四〇名
 五〇年 一名



第三〇回全国女性消防団員 活性化長崎大会開催!

第三〇回全国女性消防団員活性化長崎大会が、令和七年一月一三日(木)に出島メッセ長崎で開催されました。

本年は「来んね! 平和の街へ 島々へ」未来へ、長崎でつながる女性消防団員をテーマに、大会旗入場、開会宣言、国歌斉唱、主催者挨拶、実行委員長挨拶、開催地知事挨拶、開催地市長挨拶とプログラムが進行し、地元の長崎県長崎市長挨拶をはじめとする五団体の活動事例発表と、昼食休憩の際にはシィシー・チさんによる歌と踊りも交えたエキゾチックな二胡の演奏が行われました。

その後、地元長崎県の出身で元ジャパネットたかた社長の高田明さんによるCMさんながらの軽妙な語り口の中に熱さあふれる記念講演と、二つの団体によるプロ顔負けの防火防災啓発劇の発表が行われました。

また、日本消防協会秋本会長をコーディネーターとして、事例発表いただいた五団体の方に参加いただき、パネルディスカッションが行われました。

最後に、次回開催地である北海道へ大会旗の引き継ぎが行われ、開会宣言の後に、大会は盛会のうちに閉幕しました。

大会後は、同会場にて情報交流会が開催され、鶴鳴学園長崎女子高等学校龍踊(じゃおどり)部による演舞「龍踊り」の後、京介さんによる「変面ショー」パフォーマンスといった、中国と結びつきの深い長崎ならではのアトラクションが行われ、会場からは盛んに拍手が送られていました。この交流会では県内から参加した女性消防団員が、自らの活動を紹介したパネルなどを準備して、全国の女性消防団員に対してアピールするなど積極的に情報交換をされていました。

また、当日は当協会安満会長も日本消防協会副会長として大会に出席し、本県の女性消防団員の活性化に向けて意を強くされていました。女性消防団員の皆様にあつては、本大会で得られた多くの学びをそれぞれの消防団活動に活用していただき、兵庫県の地域防災力強化にご助力賜りますようお願いいたします。

なお、兵庫県からの参加消防団は次のとおりです。
 神戸市東灘消防団・神戸市北消防団・神戸市長田消防団・神戸市垂水消防団・芦屋市消防団・尼崎市消防団・明石市消防団・播磨町消防団・丹波篠山市消防団・丹波市消防団・洲本市消防団・淡路市消防団・兵庫県消防協会(計五一名)

今回の開催地は北海道札幌市で、令和八年九月二五日(金)に開催される予定です。



開会式の様子



鶴鳴学園長崎女子高等学校 龍踊(じゃおどり)部による演舞「龍踊り」

第四五回危険業務従事者叙勲が 令和七年一月三日に発令

二二名の兵庫県内元消防職員の皆様が発令



消防関係叙勲伝達式

消防関係叙勲伝達式



式典の様子(代表受領)

第四五回危険業務従事者叙勲伝達式出席の皆様

第四五回危険業務従事者叙勲が、令和七年一月三日に発令され、伝達式が一月二六日に東京都港区のニッショーホールにおいて執り行われました。

叙勲の栄に浴された方々は、消防職員として国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から守るため、永年にわたり著しく危険性の高い業務に精励するとともに消防力の強化、充実に尽力され、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。なお全国の消防功労受章者数、勲章別内訳及び本県の受

章者は次のとおりです。(敬称略)

(全国消防関係受章者数)

瑞宝双光章	三一五名
瑞宝単光章	三三五名
計	六五〇名

兵庫県内受章者(消防功労)

◎瑞宝双光章	元神戸市	消防正監	大西 信悟
元北はりま消防組合	消防司令長	岡田 堅三	
元加古川市	消防監	北本 善一	
元加古川市	消防司令長	高橋 淳	

元神戸市	消防監	田中 由人
元姫路市	消防監	中嶋 佳彦
元西はりま消防組合	消防監	眞島 順

◎瑞宝単光章	元美方郡広域事務組合	消防司令	岩瀬 澄男
元尼崎市	消防司令長	上田 登	
元神戸市	消防司令長	北山 昇吾	
元西宮市	消防司令	木下 修	
元南但広域行政事務組合	消防司令	小谷満輝男	
元西はりま消防組合	消防司令長	小林 博之	
元篠山市	消防司令	新家 弘文	
元神戸市	消防司令長	谷内 稔	
元神戸市	消防監	西林 靖明	
元姫路市	消防司令長	福永 俊樹	
元加古川市	消防司令長	藤尾 浩一	
元芦屋市	消防司令	前村 佳	
元西はりま消防組合	消防司令長	森本 敏秀	
元北はりま消防組合	消防司令長	柳川瀬 武	
元美方郡広域事務組合	消防司令	山居一二三	

令和七年秋の叙勲(消防功労) 一三名が受章



令和七年秋の叙勲伝達式出席の皆様



日本消防協会・秋本会長による祝辞

令和七年秋の叙勲が一月三日に発令されました。叙勲の受章者(消防功労)は、全国で六一八名、うち兵庫県では、元消防職員の方々一三名が叙勲の栄に浴されました。受章された方々は、永年にわたり国民の生命、身体及び財産を火災等の災害から守るとともに、幾多の災害に

先して敢然と立ち向かわれ、地域の安全・安心の確保に尽力されました。また、消防力の強化、充実に努めるとともに、消防の発展に貢献し、社会公共の福祉の増進に寄与されました。今回の叙勲の伝達式は、令和七年一月二日(水)に東京都港区のニッショーホールにて執り行われました。なお、全国の消防功労受章者数、勲章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。(敬称略)

(全国消防功労受章者数)

瑞宝中綬章	一名
瑞宝小綬章	三三名
旭日双光章	四名
瑞宝双光章	四五名
瑞宝単光章	五三五名
計	六一八名

兵庫県内受章者(消防功労)

◎瑞宝小綬章	元北はりま消防組合	消防正監	石古 覚
--------	-----------	------	------

令和七年秋の褒章

令和七年一月三日に発令



令和七年秋の褒章伝達式出席のお二人

消防団員として、永年にわたり消防防災活動に献身的に努力し、消防の発展に大きく貢献した方へ授与される藍綬褒章の伝達式が、令和七年一月一九日に東京都千代田区の合同庁舎第二号館(総務省)地下二階講堂にて執り行われ、兵庫県から二名の

方が受章の栄に輝きました。なお、全国の消防功労受章者数、褒章別内訳及び本県の受章者は次のとおりです。(敬称略)

(全国消防功績受章者数)

紅綬褒章	二名
黄綬褒章	七名
藍綬褒章	九八名
計	一〇七名

兵庫県内受章者(消防功績)

◎藍綬褒章	現神戸市北消防団	団長	坂井 正和
現神戸市垂水消防団	団長	森本 喜久	



林総務大臣による式辞

◎瑞宝双光章	元淡路市消防団	団長	曾谷 哲也
元加西市消防団	団長	深田 哲也	
元神戸市須磨消防団	団長	鷲尾 庄司	
◎瑞宝単光章	元姫路市姫路東消防団	分団長	加藤 薫
元加古川市消防団	分団長	鈴木 章夫	
元尼崎市消防団	分団長	田中 壽治	
元尼崎市消防団	分団長	福井 隆	
元猪名川町消防団	分団長	前岡 隆顕	
元朝来市消防団	副団長	増田 博	
元太子町消防団	副団長	森崎 原吉	
元佐用町消防団	副団長	森本 孝吉	
元六粟市消防団	副団長	安原 勝則	



『みんなでつくろう 安全・安心の街』

神戸市須磨消防団

【須磨区の地域特性】

神戸市須磨区は、海と山に恵まれた自然豊かな地域です。代表的な特産品は、神戸沖で養殖される「須磨海苔」、神戸ワインの搾りかすを餌に育てられた脂が少なく鮮やかな朱色の「須磨サーモン」、須磨近海で漁獲される「いかなごのくぎ煮」があります。代表的な景勝地として、阪神間最大の海水浴場である須磨海岸があります。近年では、開業一周年を迎えた「須磨シーワールド」でのシャチやイルカのダイナミックなジャンプも話題です。

また、松林が広がる須磨浦公園からはロープウェイとレトロなカーレーサーを乗り継ぎ、山上へと登ることが出来ます。山頂からは大阪湾、明石海峡大橋、淡路島などを一望でき、須磨アルプスから六甲山系へと続く絶景が広がります。



学生の消防団活動

【活動紹介】

須磨消防団では、火災対応に加え、地域に根ざした様々な活動を行っています。

一 文化財防火デーの放水訓練

歴史的建造物である須磨寺にて水消火器訓練、煙体験、ロープ結索体験などを通じて、子どもから高齢者まで幅広い世代に防災の重要性を伝えています。

二 救命講習・地域イベントへの参加

救急インストラクター資格を持つ団員は、神戸マラソン大会の救護ボランティアとしても活動。講習では「自分にもできる」と感じてもらえるよう、分かりやすく丁寧な指導を心がけています。

三 実践的な訓練の実施

令和六年度の「これからの消防団のあり方検討会」を受け、令和七年度から神戸市消



実践的な訓練

『歩みを止めず、進化する消防団』

尼崎市消防団

【住みやすい街の消防団】

兵庫県南東部に位置する尼崎市は、面積約五〇平方キロメートル、人口約四十五万人を擁する中核市です。

地域の南部には日本の高度経済成長を支えた工業地域が広がり、中部には賑わい豊かな商業地域、北部には閑静な住宅地が形成されています。

また、下町文化と人情味あふれる街並みや優れた交通利便性が高く評価され、過去には「本当に住みやすい街大賞二〇一八 in 関西」でJR尼崎駅周辺が第一位に選ばれました。

この活気ある尼崎市を災害から守るのが、尼崎市消防団です。

消防団令が公布され、全国に消防団が誕生した昭和二十二年当時、尼崎市には旧町村ごとに組織された六つの消防団が存在しました。その後、昭

消防小型ポンプ操法大会は一時休止となりました。代わりに、須磨消防団では消火栓の使用法、長距離ホース延長、延焼阻止、消防隊との連携、河川取水、重量物除去などの実践的な訓練を複数回に分けて実施しています。

【学生の消防団の活動】

神戸女子大学に在籍する一

六名の学生の消防団員が、入団促進訓練を企画・運営。屋内消火栓を使った放水訓練や消火器による



文化財防火デーの放水訓練

【尼崎市消防団の一年】

尼崎市消防団の一年は、一月の消防出初式から始まり、二月の年末火災特別警戒で終わります。

その間、四月の新任消防団員辞令交付式・研修、五月の水防工法訓練、八月の招集訓練、一〇月のポンプ操法大会、十一月の機械器具点検など、各種研修・訓練が実施されました。また、防火・防災啓発活動や地域活動への協力も行われ、多忙なスケジュールが続きます。

会社勤めのサラリーマン団員が多い中、これらの活動を継続するのは困難を伴います。

初期消火の指導を通じて、消防団の魅力と地域防災の重要性を伝えました。

このような防災活動や地域活性化の取組を通じて、今後自治会や自主防災組織と連携しながら、地域の「安全・安心な街づくり」に継続して貢献してまいります。

が、地域の安全と安心を守るため、団員同士で助け合いながら取り組んでいます。

【女性消防団員の活躍と新たな取組】

尼崎市消防団に初めて女性団員が誕生したのは平成五年です。当時、消防団本部に配属された五人の女性団員は、それまでになかった女性ならではの視点と柔軟な対応力を



ポンプ操法に取り組む女性消防団員

活かし、防火・防災の重要性を広く啓発しました。こうした彼女たちの努力と熱意が実を結び、現在は五九人の女性消防団員が啓発活動だけでなく、火災現場で男性消防団員と肩を並べて活躍しています。

また、令和四年度からは、これまで消防団本部に在籍していた女性団員を中心とした企画広報分団を新設し、入団



水防工法訓練の様子

【持続可能な消防団を目指して】

消防団員の減少は全国的な課題ですが、都市化が進んだ尼崎市でも、住民の価値観の多様化や社会構造の変化を背景に、新たな団員確保に苦勞しています。

また、団員の六割から七割が被用者であるため、仕事や家庭と消防団活動の両立が難しい状況です。

こうした状況を踏まえ、今後も消防団活動を継続できる環境づくりに一層取り組む必要があると考えています。尼崎市消防団は、南海トラフ巨大地震をはじめとする大規模災害に万全の備えを期すとともに、一〇年先、二〇年先の地域防災のあり方を展望し、更なる進化を続けます。

われら若手消防団員 ~地域に愛される消防団員を目指して~



稲美町消防団 母里南分団 印南第三部 団員 唐木 啓太

稲美町には八八のため池が点在し、水路や田畑、集落などによって構成された特有の景観が広がっています。都市部からのアクセスが良いだけでなく、コウノトリが子育てを行い、ホタルの乱舞も見ることができ、のどかな田園のまちです。

わたしたちから、先輩団員の皆さんに優しく迎えられ、地元での交流も深まり、いい雰囲気です。日々活動しています。また、先輩団員の皆さんからは技術はもろろのこと、地域への思いや責任感も学ばせていただき、消防団に誇りをもって活動することができています。

わが町の団長さん

「若き地域のリーダー」



南あわじ市消防団
井上 英樹

南あわじ市は、兵庫県の最南端のまちであり、淡路玉ねぎ、三年とらふぐなどの美味しい食材と、鳴門海峡の渦潮や慶野松原などの豊かな自然に恵まれた町です。

南あわじ市消防団は、四方面隊、五八分団、団員二、一八名で日夜消防活動に取り組んでおります。

令和七年四月一日に南あわじ市消防団第一〇代団長に就任された井上団長は、大工として働いた傍ら、団長という重責を担い多忙な日々を送っています。その人柄は、細やかな気配りができ、仲間との絆を大切にする地域のリーダー的存在として多くの人々に信頼されています。

団長は職務において、火災の規模にかかわらず現場に駆け付けて指揮をとることを心掛けています。消防団長として地域の安全を守るという強い使命感とその姿勢は、幹部や団員の模範となり、地域の安全を支える原動力となっています。

他方で、地域の祭り等で奉納される「だんじり唄」に深い愛情を持ち、その魅力を次

世代へ伝承することを目的に地元小学校では師匠として、後継者の育成にも力を注いでいます。

「地域に尽くす消防団員に感謝」



猪名川町消防団
奥中 章夫

猪名川町は兵庫県の南東部、阪神地区の北部に位置し、東隣は大阪府に接しています。また一級河川猪名川の源流が町の中心を南北に流れており、南部は住宅街、北部は昔ながらの農村の二つの顔を持っています。

消防団は、昭和三〇年の創設以来、郷土愛護の精神と強い責任感のもと、活動を続けてまいりました。現在も、多くの団員が仕事をもちながら、昼夜を問わず地域の安全を守るために尽力しています。

近年、多発する自然災害や多様化する災害リスクに対し、私たち消防団の役割はますます重要になっていきます。火災対応に加え、風水害や地震への備え、地域活動への参画など消防団に求められる役割は多岐にわたります。団員一人ひとりが「この町のために何か一つでも貢献したい」という使命感をもって日々活動を続けており、そんな団員の姿に私は感謝の気持ちと大きい責任感をもって団長という重職に見合うよう日々研鑽を重ね、職務に励んでおります。

町民の皆さま、消防団員のご家族、関係機関の皆さまには、今後とも猪名川町消防団の活動にご理解とご支援を賜りますよう、心よりお願い申し上げます。地域の安全・安心を守るため、地域全体で防災意識を高め、協力していただけるよう尽力いたします。



猪名川町

南あわじ市

がんばってます、女性消防団員

『地域を支える力、私たち女性消防団員!!』

姫路市姫路西消防団

姫路市は兵庫県南西部に位置し、人口約五二万人、面積五三・四平方キロメートルで、世界文化遺産の国宝姫路城や商業施設、工業地帯、山岳地帯など多様な地域が存在しています。

姫路市の消防団は八団七二分団から成り、約二、八〇〇人の団員が活動しています。平成二四年三月一日には女性消防団員が誕生し、現在二〇人が在籍、そのうち六人が姫路西消防団で活動しています。

消防団の認知度は高いものの、女性消防団員の存在や活動内容については知られていないことが多いと言えます。主な活動には消防出初式や防災訓練、災害時の出動が含まれ、地域の安全を守るために活動しています。コロナ禍で

『地域の安全、安心を支える明るい笑顔!』

丹波市消防団 女性消防分団

令和七年四月一日現在で、丹波市消防団は団員総数一、六七六名で、そのうち女性消防団員は現在一一名で編成しております。女性消防分団は平成一六年一月一日の丹波市消防団発足と同時に配置されました。

初出式などの消防団主要事業での運営業務をはじめ、広報車により毎月一回の火災予防の呼びかけを行っています。ほかにも年末火災特別警戒では、丹波市の防災行政無線を使用し、火災予防運動期間中は、啓発チラシの配布などで火災予防啓発を行っています。

火災予防啓発事業では、小さな子ども向けのキッズ防火服着替え体験や水消火器体験などを行い、周りの大人への防火意識の高揚に繋げようと全国

は活動が制限されましたが、徐々に再開し、昨年は消防操法大会が6年ぶりに実施され、女性消防団員も運営に参加し、特性を活かした活動を行いました。

また、兵庫県立大学姫路工学キャンパスの学園祭では消防団加入促進のための広報ブースを設置し、女性消防団員が防災グッズの展示や体験コーナーを担当しました。市民や大学生に消防団の活動を身近に感じてもらい、将来的に地域防災を担う大学生への消防団の認知拡大につな

女性消防団員活性化大会で学んだことを実践しています。

また、消防署の隊員に同行して活動するPTAや自治会などの「救急救命講習会」では、「応急手当普及員」の資格を取得して、講習会の補助を行う団員もおり地域の救命・救急の推進に大きく貢献しています。

過去には、平成二六年の丹波市豪雨災害の体験を教訓に「炊き出し訓練」を行い、有事の際にいち早く行動できる



兵庫県立大学姫路工学キャンパスの学園祭



「火災予防運動啓発活動」の様子

よう訓練を実施しました。

消防団活動は、それぞれが仕事を持ちながら行う大変な活動ですが、丹波市消防団女性消防分団は、使命感に満ち溢れた団員が集まっており、その明るい笑顔に地域住民の安全と安心が守られています。

まだまだ女性消防団員の認知向上が課題ではありますが、これからも地域を支える防災の中心的存在として頑張っていきたいと思っております。